

寄附金募集計画書

1. 寄附金の名称

仁科芳雄博士記念行事における広報および人材育成事業支援寄附金

2. 募集対象事業

(1) 事業名

仁科芳雄博士に関する展示施設的制作・維持および記念行事の開催

(2) 趣旨

理化学研究所仁科加速器科学研究センターは、日本の原子核物理の父である仁科芳雄博士の名前を冠した研究センターとして 2006 年に発足し、我が国初の新元素ニホニウム(元素番号 113 番)の発見など元素変換に関する多くの研究成果を生み出しています。仁科博士由来の基幹装置であるサイクロトロン加速器は、世代を超えて幾多の発展を遂げてきました。2007 年より稼働した「RI ビームファクトリー」は、世界最高性能を誇る超伝導サイクロトロンを擁し、世界の原子核物理学を先導しています。また、この施設で生み出される重イオンビームやラジオアイソトープは、基礎研究だけではなく、核変換工学分野、核医学分野、育種産業、宇宙産業など、多くの社会活動にも貢献しています。

仁科博士が欧州滞在から帰国後、当時文京区駒込にあった理化学研究所に仁科研究室を開設したのは 1931 年、「コペンハーゲン精神」に基づく研究環境を醸成し、素粒子・理論物理学、宇宙線研究、原子核物理学の実験研究、原子力工学等の始祖として、湯川秀樹・朝永振一郎など多くの若手物理学者に新しい科学を講義し刺激を与え、世界的レベルにまで育て上げるとともに、原子核物理学の実験でも国内初のサイクロトロンを建設するなど数多くの働きをされました。

今般、仁科記念財団様より、仁科博士が当時使用していた机や椅子、書簡といった歴史的資料を理化学研究所が譲り受けることになりました。仁科博士の偉業を後世に伝える本事業では、それらを用いて仁科博士の研究室を再現し、当時の自由闊達な原子核物理研究での日常的一幕を、一般見学者や学生などの若い世代の方々に体験していただける展示施設（仁科芳雄記念室）を整備します。

また、本施設的制作の一部および完成した後の施設の維持や、併設されているサイクロペディアという一般見学用施設の維持し、それらを一体的に運用し、原子核物理の勃興から、仁科加速器科学研究センターで行われている最先端研究までを俯瞰して学ぶことができる場を作り上げていきます。これらは、原子核物理など学問への興味関心を育む役割を果たし、長期的な視点でも人材育成に資する施設となります。

なお、本施設の完成を記念してお披露目を開催するとともに、仁科博士の意思を継承し、各分野で歴史を紡いできた関係者にお集まりいただき、将来を見据えた我が国の研究基盤、社会基盤ならびに人材育成の在り方について考えるシンポジウムを執り行います。さらに、本施設の完成やその意義を一般に向けて周知するための広報媒体を制作します。

(3) 事業内容

① 代表者

国立研究開発法人理化学研究所 仁科加速器科学研究センター
センター長 櫻井 博儀

② 内容

- ・仁科芳雄記念室の制作および広報施設の維持管理
- ・展示物説明員に係る人件費
- ・広報媒体の制作

3. 募集額

1000 万円

一口 10 万円(一口以上で御協力をお願いします)

4. 募集期間

2022 年 8 月 1 日 ～ 2023 年 3 月 31 日

5. 支出計画 (目安)

・ 記念室の制作 (一部)	450 万円
・ 広報施設維持・管理費	100 万円
・ 展示物説明員に係る人件費	300 万円
・ 広報媒体制作	50 万円
・ 一般管理費	100 万円

6. 募集の方法及び手続き

- ・ 理研所外ホームページ 寄附金のページ
(URL : <https://www.riken.jp/support/solicited/>) への掲載
- ・ 仁科加速器科学研究センターのホームページ
(URL : <https://www.nishina.riken.jp/>) への掲載

7. 「仁科芳雄博士記念行事における広報および人材育成事業支援寄附金」独自の特典

<一口(10万円)以上ご寄附をいただいた希望者のみ>

- ・ 本センターが開催するイベント等のご案内
- ・ 特設ホームページへの芳名の掲載
- ・ 記念室に芳名銘板の設置

8. 募集計画書 (本事業) の問い合わせ先

国立研究開発法人理化学研究所 仁科加速器科学研究センター
仁科加速器科学・数理創造研究推進室

E-mail : nishina-kifu@riken.jp (※[at]は@に置き換えてください。)

住所 : 〒351-0198 埼玉県和光市広沢 2 番 1 号

以 上